

平成29年度第1回 沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会議事要旨

日時：平成29年6月14日(水)19時より

場所：琉球大学医学部附属病院がんセンター

- 参加者6名： 笹良 剛史(豊見城中央病院診療部長)
足立 源樹(那覇市立病院放射線科部長)
野里 栄治(北部地区医師会病院外科部長)
尾崎 信弘(県立八重山外科部長)
多和田 慎子(琉大病院緩和ケアセンタ GM)
増田 昌人(琉大病院がんセンター長)
- 欠席者2名： 新屋 洋平(県立中部病院地域ケア医)
中村 清哉(琉大病院緩和ケアセンター 副センター長)
- 陪席 2名： 山口 元子(がんセンター事務) 渡邊 道子(がんセンター事務)

《報告事項》

- 平成28年度第6回緩和ケア部会議事要旨について
資料1に基づき、笹良部会長より平成28年度第6回緩和ケア部会議事要旨の報告があった。
- 緩和ケア研修会修了報告について(那覇市立病院)
資料2に基づき、足立委員より那覇市立病院の緩和ケア研修会の報告があった。
- 日本緩和医療学会について
資料3に基づき、増田より日本緩和医療学会の出席確認があった。
また、今後、学会発表の調査を行う予定であると報告があった。
- 緩和ケア研修会合同検討会議について
資料5に基づき、増田より平成29年度第1回 緩和ケア研修会検討会の報告があった。
- ピアサポーターの派遣について
増田より、緩和ケア研修会へどのようにピアサポーターを派遣していくのかについての報告があった。
ピアサポーターはボランティアであるが、謝金については各病院の規定によって行って欲しいとの提案を行い委員の賛同を得た。また、研修会ごとのピアサポーターの参加確認は沖縄県地域統括相談支援センターが行い、それ以降の手続きは、各病院で行うと委員で取り決めた。
- 緩和ケアチーム実施研修について
資料6に基づき、増田より緩和ケアチーム実地研修の報告があった。
- 緩和ケアチーム登録について
資料7に基づき、多和田副部会長よりケアチーム登録についての報告があった。

8. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の受講率について

資料8に基づき、増田より県内の緩和ケア研修会受講率の報告があった。

《協議事項》

1. 平成 28 年度の部会長・副部会長及び部会委員について

平成 29 年度の部会長、副部会長は委員の互選により、笹良部会長、新屋副部会長、多和田副部会長が務める事となった。

笹良部会長より、今後の要望として、本緩和ケア部会は、がん拠点病院が中心で行う事が多いため、部会役員をがん拠点病院から選出してもらい、緩和医療学会の委員もがん拠点病院の方が望ましいとの話があった。

また、拠点病院として、医師、看護師の参加を呼びかけ、緩和医療学会の会員を増やして頂き、学会の発表にも積極的に取り組んでもらい、今後は、看護師が中心になり、医師と看護師で行う事が望ましいとの意見があった。

2. 痛みのスクリーニングと結果のフィードバック及び主治医(チーム)の行動変容について

資料10に基づき、多和田副部会長より、報告を行なった。琉大病院では、痛みのある患者に対して対応し、がん患者以外のチームに依頼がなされていない場合は病棟看護師、薬剤師、医師へ引きついでいる。また、除痛率について、計算式は以前の物を使用しているため、現在、算出方法の変更をシステム管理室とサーバーマスターの業者と取組中であるとの報告がなされた。

また、リンクナースと一緒に委員会を運営しており、対応のフローチャートを作成や、コミュニケーションの DVD を作成し、院内教育を行っているとの報告があった。

現在、琉大では入院の患者全てを対応としスクリーニング型モニタリングを行っており、データの内容としては大変良いが、担当看護師 1 名で全ての作業を行っているため、継続するためには、事務員の補充が必要であるとの意見があった。

スクリーニングについて、最初の段階のスクリーニングは簡単に質問を行い、その次の段階で入院患者に対してモニタリングを行う事が良いのではとの意見があった。

3. 平成 29 年度緩和ケア研修会について

笹良部会長より、資料14に基づき、今後の緩和ケア研修会について今後の開催について 7 月が国立病院機構沖縄 9 月が那覇市立病院 10 月浦添総合病院 11 月が豊見城中央病院 1 月ハートライフ病院

今後の予定としては、琉球大学医学部附属病院、宮古・八重山病院が検討中との報告があった。

また、緩和ケア研修会の B 日程の猶予期間の延長や、カリキュラムの件についての話し合いがあった。

4. 施設相互訪問について

増田委員より、施設相互訪問について研究班の資料があるので、必要があれば部会に提供しても良いとの話があった。

施設相互訪問に関して、個々で行っても良いのではとの意見もあったが、長期的に行っていくためには個々で行うよりも、拠点病院やチームが結びつき協力し合う事が良いのではとの意見があった。また、組織で行うメリットとしては、足りない部分に関しての改善が可能であるとの意見もあった。

緩和ケアチームの施設訪問とがん拠点の施設訪問で異なるところもあるので、次回、沖縄県緩和ケアチーム研修会(9月30日に実施)の議題の中で話し合うこととなった。

5. 緩和ケア情報シート見直しについて

緩和ケア情報シートについて、インフォードコンセントを行った時に伝わっているのか、どのような事を伝えたのかを残すことは大切なことであるが、個々に、自由記載を行うと解釈のずれが生じることがあるため、ある程度、統一した方が良いとの意見が出された。色々な病院の情報シートを参考に知りたい内容をまとめて改善後に、一度確認し合い、その後、ホスピス交流会でも確認し、来年度くらいに実施出来ればとの話があった。

また、緩和ケア情報シートの作成を看護学校や、大学院生の学生などに研究テーマとして手伝ってもらえると、人材育成にもつながり良いのではとの意見もあった。

6. 平成29年度事業計画について

笹良部会長より、平成29年度事業計画についての報告があり、緩和ケアフォローアップ研修会の問題点としての参加者が少ないとの指摘があった。今後は、アナウンスの仕方など検討する必要があるとの意見があった。

増田より、今回の意見を参考に、ロジックモデルの改正を行うとの報告があった。